

1. 評価報告概要表

作成日 平成 年 月 日

【評価実施概要】

事業所番号	1070300601
法人名	医療法人山育会
事業所名	グループホームサンシャイン
所在地	桐生市川内町1-322-1 (電話) 0277-65-7600

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年11月25日

【情報提供票より】(平成20年 10月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14人, 非常勤 0人	常勤換算 12.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	用品費100円/日・レクリエーション費100円/	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円

(4) 利用者の概要(10月 25日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人山育会 たかのす診療所 ・ 日新病院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の文化祭や「こども祭り」に入居者と共に参加したり、玄関先の日溜まりで日光浴をしながら近所の人達を交えお茶を飲んだり、施設主催のお茶会に近所の人達を招待したり、恒例の「餅つき」に入居者の家族は勿論地域の大人や子供が参加するなど地域との交流を大切に施設運営に努めている。県主催の各種研修会に参加し、法人が主催するQC活動で毎年議題を決め問題点の摘出や解決策を発表すると共に、法人の作業療法士等を招き定期的に勉強会を開くなど職員の資質向上に取り組んでいる。入居契約時に月1回の面会を説明し、面会時に日常生活状況を説明すると共に家族の意向や要望を聞くなど家族との絆を大切に運営に努めている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題をミーティングで話し合い、市町村との連携、プライバシーの確保、食事を楽しむ支援について具体的な改善が行われたが、地域密着型サービスとしての理念の見直し及び重度化や終末期に向けた方針の共有について引き続き改善に向けての取り組みを期待する。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の用紙を全職員に配り記入し、管理者が取りまとめている。自己評価を活かした改善として、八木節等のボランティア訪問の際に自治会の回覧板を利用し見物呼びかけ等の取り組みをしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、行事開催予定や活動状況・外部評価等の報告をしている。地元委員の意見により、恒例の餅つきに自治会の回覧板に案内状を添えて参加を呼びかけるなど意見を活かしたサービスの向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	最低月1回の面会を入居契約時に説明し、面会時に日常生活状況等を報告している。また、毎月発行している「ホームだより」で職員の異動や納涼祭・外食行事の開催状況等を知らせている。年2回開催している家族交流会や面会時に何でも言ってもらえる雰囲気作りを留意し、食べ物の好き嫌いや食事内容等について家族の意向に沿った支援を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の文化祭や「こども祭り」に、入居者と共に見物している。ホーム主催のお茶会に近所の人達を招待したり、恒例となっている「餅つき」には自治会の回覧板を利用し地域の人達に参加を呼びかけ、入居者の家族は勿論地域の人々や子供達も参加している。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「温かい家庭の中で生活機能を活かし、尊厳を大切にします。・ゆったりと自由な暮らし・明るく笑いのある暮らし・自分で出来る喜びと達成感のある暮らし・生活の張り合いや楽しみがある暮らし これらの暮らしが実現されるよう全職員が日々努力します。」の理念を掲げ、日々支援をしている。	○	事業所の理念は、その事業所が目指すサービスのあり方を示したものであり、管理者及び職員で話し合い、地域密着型サービスの理念を盛り込んだものに見直すよう期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新入職員には、採用時理念を説明している。食事の準備や買い物と一緒にするなど張り合いのある日常生活が送れるよう理念に沿った支援をしている。毎週開催される会議で、理念に沿った支援がされているかを確認し問題解決にあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地区の文化祭や「こども祭り」を入居者と共に見物している。ホーム主催の餅つきやお茶会には、近所の人達を招待している。また、中学生の職場体験を受け入れ、運動会や合唱コンクールに招待される等地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の用紙を全職員に配り記入し、管理者が取りまとめている。自己評価を活かした改善として、八木節等のボランティア訪問の際に自治会の回覧板を利用し地域の人達に見物の案内をしている。外部評価の改善課題は、ミーティングで話し合い改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に開催し、行事開催予定や活動状況・外部評価等の報告をしている。地元委員の意見により、恒例の餅つきに自治会の回覧板に案内状を添えて参加を呼びかける等意見を活かしたサービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	各種更新書類や運営推進会議開催案内状を持参したとき、入居者の権利擁護関係等の相談を行い指導を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の面会を入居契約時に説明し、健康状態や日常生活状況を報告すると共に、毎月発行している「ホームだより」で職員の異動や納涼祭・外食行事の開催状況等を知らせている。金銭管理のできる入居者は、小遣いを所持し日用品等を購入し、その他の入居者は預り金処理とし、出納帳の写しと領収書を添え毎月精算している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、外部への苦情の申し出は契約時に説明している。家族交流会や面会時に何でも言ってもらえる雰囲気づくりに留意し、食べ物の好き嫌いや食事内容等について家族の意向に沿った支援を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は、極力抑制している。新規採用職員は、入職後3ヶ月間は勤務のかたわら法人内研修を受け、夜勤は2～3ヶ月間2人体制とし、入居者の顔と名前が一致し個々の性格等を把握してから1人で夜勤に就くこととしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県主催の基礎研修や経験年数に応じて認知症介護実践研修を受講し、報告書を作成しミーティングの席で発表している。法人が主催するQC活動には全職員であったり、毎年議題を決め問題点の摘出や解決策等を発表している。職場内研修として、法人の職員である作業療法士や看護師を招き介護等についての勉強会を開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、大会で事例発表を行うと共に職員相互派遣研修に参加し、相互交流によるサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人や家族が事業所見学を行い、入居者や職員との交流を通じ雰囲気に慣れてもらうと共に、入居当初は面会や電話を多くして頂き、徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共用部分の掃除や買い物、十五夜等の行事食や餅つきを職員と共にやり、終了後は入居者に必ずお礼や労いの言葉かけを行っている。また、入居者から散歩の時などに地元の行事や歌、地名のいわれを教える等共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族や本人の希望を聴き、敬老会等の行事に三味線を弾いてもらったり、活け花の師匠をしていた入居者には居間に花を活けてもらっている。意思表示の困難な入居者は、言動や表情から意向の把握に努めると共に家族から希望を聴き本人本位に暮らせるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の介護は担当制をとり、毎月開催されるケアカンファレンスで、担当職員が作成した介護計画の素案を医師・看護師等を交え検討し、計画作成担当者が手直しをして作成している。家族の意見は面会時に聞き取り、「健康状態記録票」に記載し、介護計画に反映している。日誌には介護計画の写しを添付し、日々のケアとの整合性を図っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日誌やモニタリング記録に基づき3ヶ月毎の見直しを行っている。日常生活における状態の変化や退院後には、期間終了前でも見直しを行っている。介護計画の写しを家族に渡し説明し、意見や希望等を取り入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診は原則家族が送迎しているが、ホームの協力医や市の定期健康診断、墓参り、外泊、理美容院への送迎は職員が行っている。系列病院に地域連携室が設置され、相談員と家族とは緊密な連携を取り家族の意向把握に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に家族の意向を聞き、ホームの協力医を希望の場合は月1回の往診を受けている。家族が希望するかかりつけ医の受診の際は、健康状態記録表及び血圧記録のコピーを家族に渡し、受診結果を聴き取り個人記録表に転記し、申し送り時に職員に伝達している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算を取得しており、重度化や終末期を迎えた場合は、家族の意向により、医師、看護師、職員、家族を含め対応を協議することとしている。理事長からは家族の意向を尊重するよう指示があるも、方針等は作成されていない。	○	できるだけ早い段階から、重度化や終末期の在り方について、医師等と話し合いを行い、方針を定め職員全員で共有されるよう期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	地域密着型サービス連絡協議会主催の接遇研修を受けると共に、言葉づかいや呼称、排泄誘導など日常生活の中でプライバシーに配慮した介護を心がけている。日誌は入居者の目につかない事務室で記入し、介護計画等は事務室の鍵のかかるロッカーに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝の掃除や日用品の買い物、またパーマをかけよそ行きの着物を着て外出する等一人ひとりの意向を尊重し、自由な日常生活が送れるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は、食材の買い付け、毎食の調理の仕込み、盛り付け、後片付けを職員と共に行っている。食事中はテレビを消し、バックミュージックを流した静かな雰囲気のもとで、職員も同じテーブルを囲み、見守りと談笑をしながら楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2ユニットが交互に隔日毎に入浴しており、希望者は毎日でも入浴できる体制にある。広い浴槽にゆったりと気の合った入居者同士が入浴し、時にはユズ・菖蒲・リンゴ湯等を行い季節感がある入浴を楽しめるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ジャガイモの皮むき等毎食の仕込みや「いただきます」等の声かけを交替で行っている。また、入居者の全員が洗濯物たたみを行っている。うどんを打ったり、三味線や大正琴を弾いたり、カラオケをするなどを各々に合った楽しみを支援している。家族交流会の餅つきや足利フラワーパークのふじの花見などの外出支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩をしたり、玄関先の日溜まりで日光浴をしながら近所の人達を交えお茶を飲んだりしている。入居者の希望を取り入れた外食行事を開催したり、季節には花見等のドライブ、買い物、畑の野菜作り、芝生で弁当を食べるなど機会ある毎に外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はなく、玄関も昼間は施錠していない。帰宅願望の強い入居者には職員が安全を確認した後をついて歩き、一緒に帰ってくるなど鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時対応のマニュアルや連絡網が整備されている。年2回開催する避難・消火・通報訓練には2回とも消防署の指導を受け、自治会の回覧板で消火・避難訓練への参加をお願いし、地域の人達の参加を頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリー等について、系列の管理栄養士のチェックを定期的を受けている。食事マニュアルがあり、サービス実績表に毎食の摂取状況を記録している。水分摂取は、毎食時とおやつの時間に飲む他に、何時でも好きな時に飲めるようポットにお茶を入れ食卓に用意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には胡蝶蘭の鉢が置かれ、菊の花が活けられている。居間兼食堂は床暖房が施され、天窓から陽光がそそがれている。入居者の活けた季節の花が飾られたり、布製の大きなカレンダーが掛けられ、和室には炬燵を設置しており、季節感・生活感があり居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具やこたつ、三味線や大正琴、小説や本が持ち込まれている。家族や孫の写真、活け花、人形が飾られ、各居室とも心地良く過ごせるよう配慮されている。		